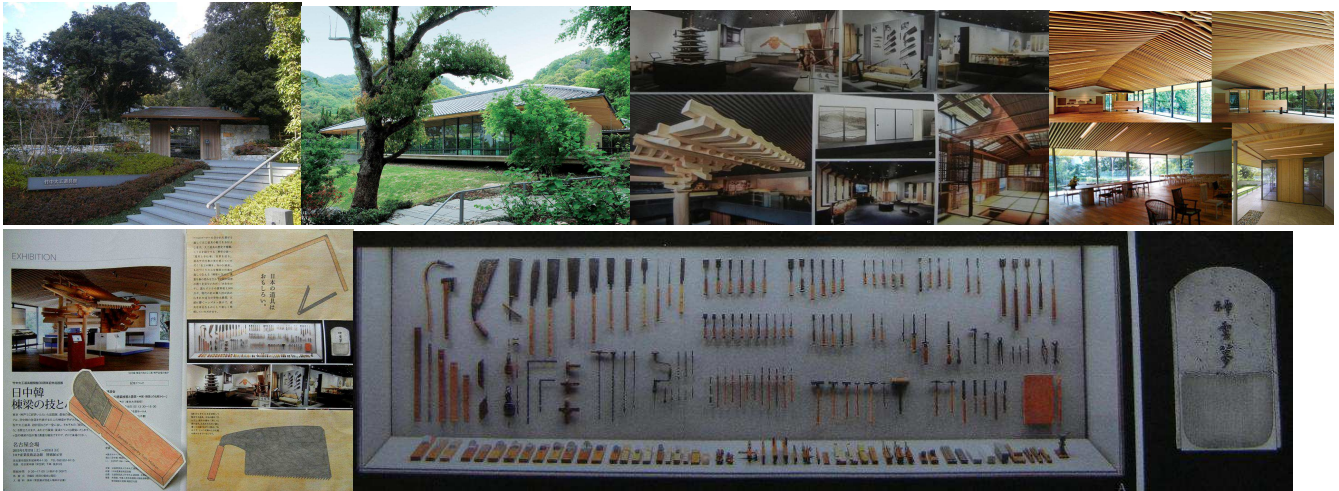


【写真アルバム】 大工道具の歴史を実物展示する大工道具博物館

お勧めの博物館「**竹中大工道具館**」新館 神戸市 2015.2.13.

昨秋新神戸駅横に素晴らしい和風展示館がオープン



2月13日の午後 ぽかぽか陽気に久しぶりに三宮へゆこう・・・と。前々から訪れたくて気になっていた日本で唯一の大工道具の専門博物館「竹中大工道具館」へ行って、ゆったりと大工道具の数々とその技を眺めてきました。

神戸市中山手にあった日本で唯一の大工道具の専門博物館「竹中大工道具館」。施設の老朽化や展示・収蔵スペースの不足等を解消するため、昨年10月、新神戸駅のすぐ南東 六甲・布引の緑豊かな地に新神戸駅前の緑豊かな地に移転オープンした。

これまで展示しきれなかった収集品の中から、選りすぐった約1千点の大工道具実物の展示を中心に、大工道具の歴史と巨木から建築木材加工への匠の技を実物と映像で解りやすく展示する。

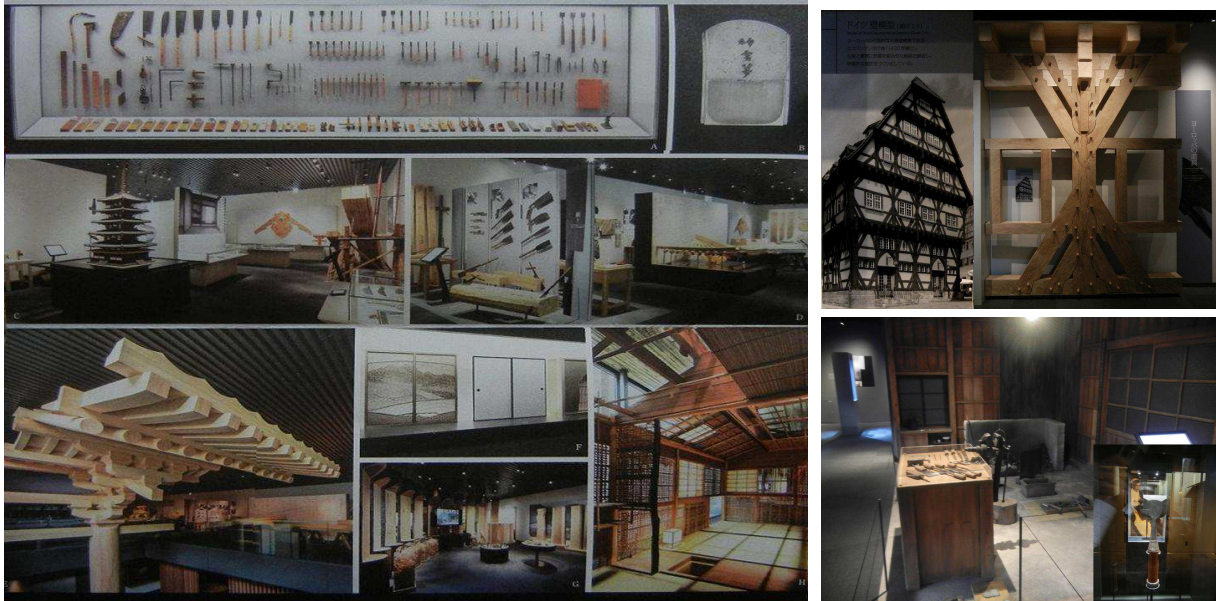
六甲連山の緑をバックにした広い日本庭園の中、大手ゼネコン竹中の現代技術の粋を集めた日本風建築の展示館が周囲に調和して建っている。木の香りが漂う落ち着いた空間の中で ゆっくりと展示を楽しめるのもうれしい。



縄文の巨木が石斧で切り倒される技 それが板や柱に切り分けられる技に継ぎ手・木組み加工 そして鉋で削られた透き通るほど薄いカンナくずや鋸も面白い。

吹き抜け空間には最近修復された高さ7メートルを超える原寸大の唐招提寺金堂の復元柱と組物など現代の匠たちの手による最高の職人技を詰め込んだ模型も展示され、大工道具を駆使した匠の技がそっくりそのまま見られる。また、縄文から現代に至るまでの木材加工の大工道具とそれを使った匠の数々の木材加工の技が実寸展示され、それらを駆使する実際の加工映像が目の前のモニターに映し出され、実にももしろい。

鑿や鉋の素材はたたら製鉄の玉鋼と地鉄の組合わせが可能にしてもあの薄い鋸齒は無理か？ ふと頭に思い浮かべましたが、やっぱり玉鋼と地鉄の古来の鍛冶技術。現在はほぼ「安来鋼」に置き換わっていと聞く。これも伝統の製鉄技術。



和風の門をくぐり、展示館1階の広い空間の椅子に座って
ゆっくり周囲を眺めているだけでも楽しい。
大きくはないが、我々にはうれしいお勧めの大工道具博物館。

2015.2.13. by Mutsu Nakanishi

《 竹中大工道具館 2015.1.13. 》



新神戸駅のすぐ横 布引谷の山裾 緑に包まれて 博物館とは思えぬ和風のたたずまいの竹中大工道具館の新館が建っている

木の香りが漂う広々とした1階 展示室はB1・B2に埋め込まれていて、和風建物の地下に広々とした展示館が埋まっているようには見えない



縄文から引き継がれてきた技 石斧で巨木を切り倒し、それを割って板材に加工する
今更ながら大変な技だと 鋸無しで板材ができるなど 想像もつかない



巨木の加工から木材そして継ぎ手・木組みへ しなやかな木造建築の要 鋸と鑿



高さ7メートルを超える原寸大の唐招提寺金堂の復元柱と組物 木材と大工道具が作り上げた匠の技 継ぎ手・木組

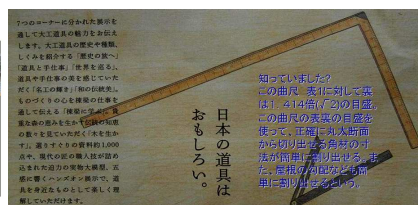
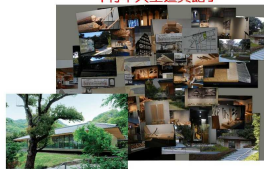


木材の表面と寸法を狂いなく仕上げ化粧する鉋の技 そして 鋭い刃を持つ強靱な工具

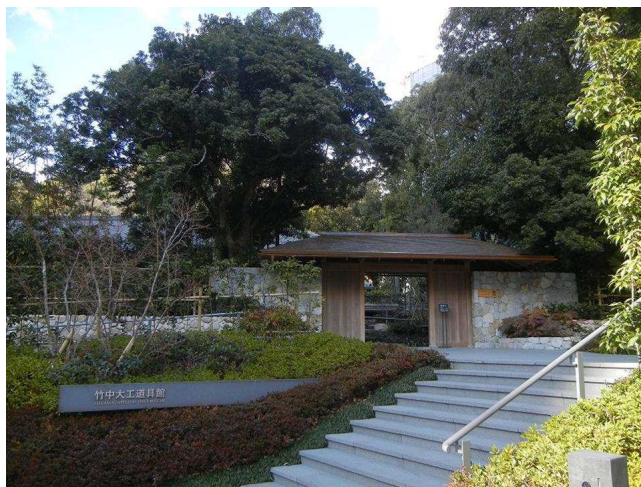


鋭い刃を持つ強靱な工具 たたらへの匠の技が光る鍛冶場

大工道具の歴史を展示する大工道具博物館
昨秋新神戸駅隣にオープンした
「竹中大工道具館」



◀ Photo Album 竹中大工道具館 2015.1.13. ▶

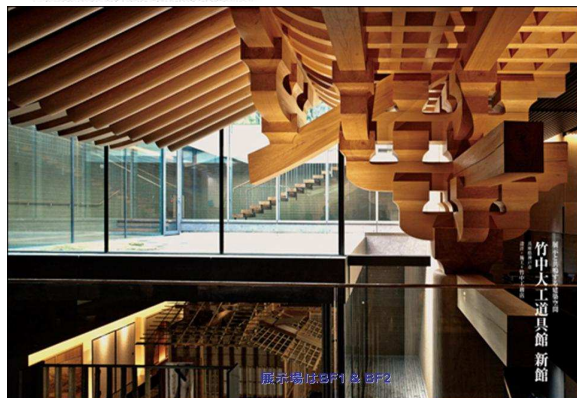


縄文の巨木が石斧で切り倒される技 それが板や柱に切り分けられる技に継ぎ手・木組み加工 そして鉋で削られた透き通るほど薄いカンナくずや鋸も面白い。
ふっと 鑿や鉋の素材はたたら製鉄の玉鋼と地鉄の組合わせが可能にしても あの薄い鋸歯は無理か?と思いましたが、やっぱり玉鋼と地鉄の古来の鍛冶技術。現在ではほぼ「安来鋼」に置き換わっていると。これも伝統の製鉄技術である。また、六甲連山の緑をバックにした広い日本庭園の中に調和して、竹中の現代技術の粋を集めた日本風建築の展示館が建っている。木の香りが漂う落ち着いた空間の中で ゆっくりと展示を楽しめるのもうれしい。
和風の門をくぐり、展示館1階の広い空間の椅子に座って ゆっくり周囲を眺めているだけでも楽しい。
大きくはないが、我々にはうれしいお勧めの大工道具博物館である。



神戸市中山手にあった日本で唯一の大工道具の専門博物館「竹中大工道具館」。施設の老朽化や展示・収蔵スペースの不足等を解消するため、昨年10月、新神戸駅のすぐ南東 六甲・布引の緑豊かな地に新神戸駅前の緑豊かな地に移転オープンした。
これまで展示しきれなかった収集品 3万点余りの中から、選りすぐった約1千点の大工道具を中心に、大工道具の歴史と匠の技を展示する大工道具博物館。吹き抜け空間には、高さ7メートルを超える原寸大の唐招提寺金堂の柱と組物など現代の匠たちの手による最高の職人技を詰め込んだ特別な模型も展示され、大工道具を駆使した匠の技がそっくりそのまま見られる。

また、縄文から現代まで 木材加工の大工道具とそれを使った匠の数々の木材加工の技が実寸展示されるとともに、モニターには実際の加工映像が目の前のモニターに映し出され、実に面しる。





展示品と来館者の距離を縮める 解説システム

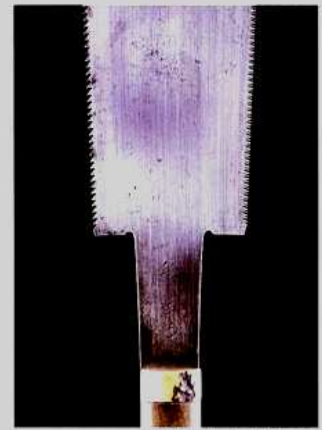
□ 見たままナビ

「見たままナビ」は、より詳しく知りたい資料の情報が一目でわかるタッチパネル式の解説ツールです。展示レイアウトをそのまま画面で再現して表示するので、知りたい資料をタッチするだけで映像や写真のふんだん解説画面が現れます。2D・3Dの解説ポイントに設置されています。



□ ビデオライブラリー

木工道具を伝えるだけでなくその保存だけでなく、使い方や作り方もあわせて伝えることが大切です。当館ではこれら資料の動画を映像として記録し、3D作品以上全館内で公開しています。各展示の壁面に、利用客若しくは多目的タームにて、個人利用客は3Dライブラリーにて各展示の映像を公開することになります。



1F 極める

「用を極め、美に至る」
機能を越えて、輝きを放つ道具たち。

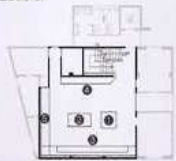


当館のシンボルである法隆寺五重塔。その周辺には最盛期の木工道具179点と名工品を展示。

木工は、職人気質といわれるように、仕事の質にかかわる道具については徹底的にこだわりの持ち主です。職人も木工の心意気に応じようと、心を込めて磨いた道具をつくり出してきました。このフロアでは職人たちが自らを磨いて生み出した数々の道具を紹介いたします。中央には当館のシンボルとして宮大工が自己研鑽のために磨き上げた法隆寺五重塔模型を設置。両脇の展示では名工が磨き上げた美しい輝きを放つ道具が周辺にご覧いただけます。正面奥では最盛期の木工道具一式179点をすべて揃えた壁面展示を用意しました。



法隆寺五重塔 千代親造



① 法隆寺五重塔 ② 名工の研鑽 ③ 木工道具の歴史 ④ 木工道具の歴史 ⑤ 木工道具の歴史



山口物産 千代親造

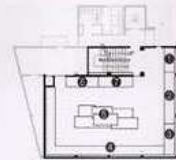
2F 造る

木で建築を造る大工の技。鉄で道具を作る鍛冶の技。



「木を組む」と「手仕事と道具」の展示。道具の使い方や作り方を詳しく解説しています。

「木の建築はどのように造られているのか」がテーマです。山から木を伐りだして材木に製材する職人が使う大型の道具を手始めに、大工が部材の加工から仕上げに至るまでに使う一連の道具を詳しく解説しています。各コーナーでは道具の使い方や作り方を映像や映像で直感的に理解できます。中央の展示台にはさまざまな木組みや仕上げの見本を展示しました。後半には大工と鍛冶の実際の作業風景が分かる映像イメージで、仕事場再現コーナーを用意しました。



① 日本の木 ② 木と製材 ③ 設計と用材 ④ 手仕事と道具 ⑤ 木を組む ⑥ 鍛冶の仕事場 ⑦ 大工の仕事場



技術と製材の道具



鍛冶の仕事場

3F 伝える

道具の歴史を振り返る。世界の道具と見比べる。



「道具の歴史」コーナー。中央では人間型型に似たまきで道具の作り方が解説できます。

「道具はどのように伝えられてきたのか」をテーマに、日本における道具の発達史をピックアップして振り返ります。日本建築史を背景に、時代を代表する建築と、それを造るために使われた道具の歴史や実物を対比的に紹介しています。また中央には歴史のターニングポイント(転換点)を直感的に理解できる強力な大型映像を設置しました。後半は視野を海外に広げ、アジアやヨーロッパの道具と比べながら形や使い方にどのような共通点や違いがあるのかを、世界でも有数のコレクションを使って解説します。



① ライプス映像 ② 建築工場の世界 ③ 歴史の転換点 ④ 道具の歴史 ⑤ 海外の道具



中国の道具



ヨーロッパの道具



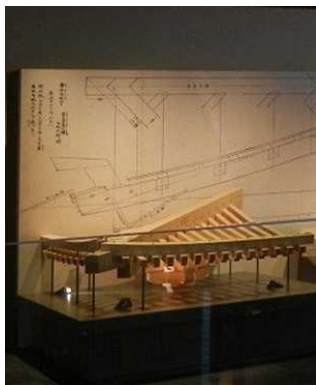


鋸がない時代 板を作るのは大変!!

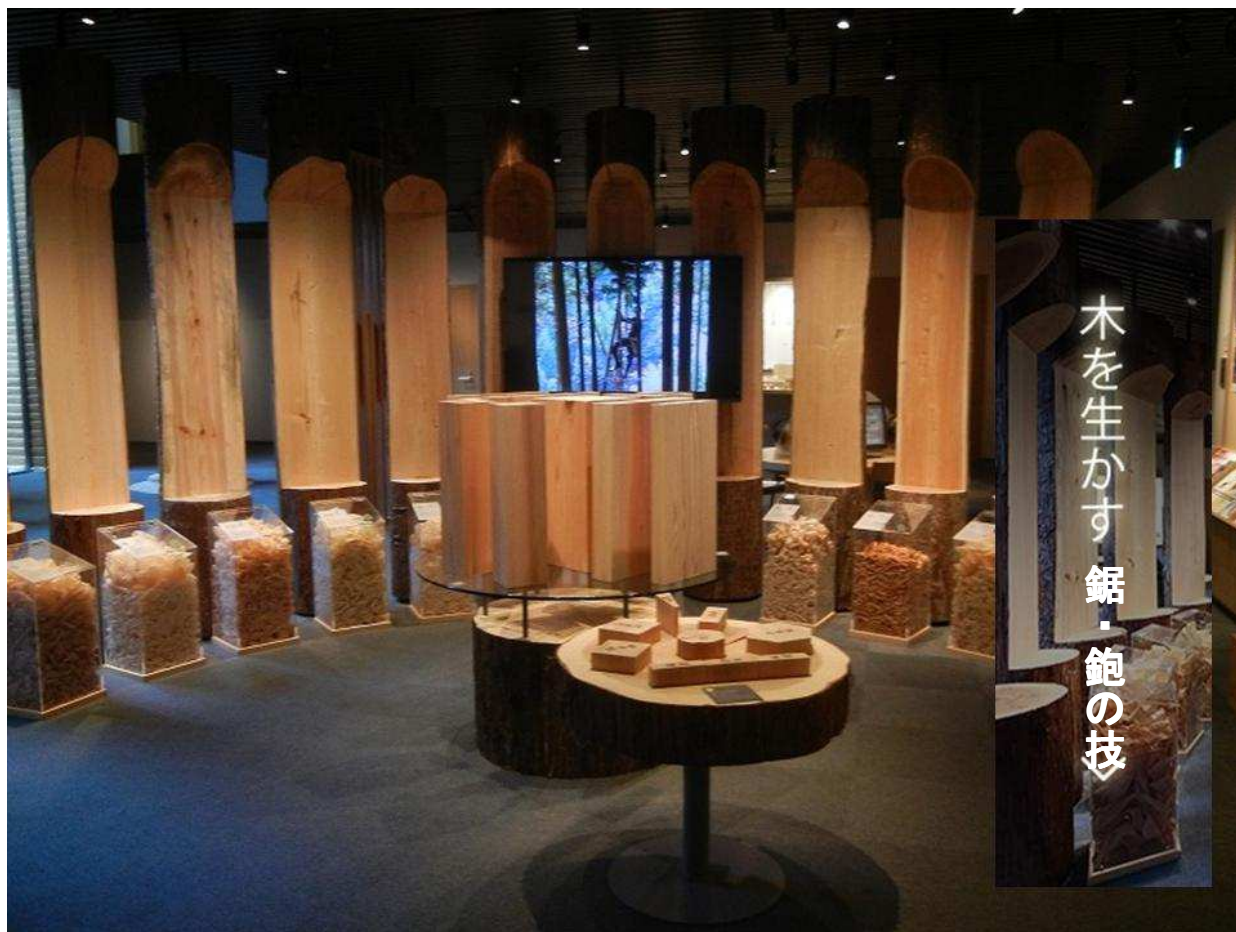


規矩術を修める:
二軒隅組模型

木を刻む:加工途中の唐招提寺金堂部材











鋭い刃を持つ強靱な工具 たたらの匠の技が光る鍛冶場



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」

消えゆく「大工道具」を収集・保存し、研究・展示を通じて後世に伝えていく

緑の中に 木の香りが漂う ゆったりとした空間 お勤めの博物館です 2015.2.13 by Mutsu Nakanishi



大工道具の歴史を展示する大工道具博物館
昨秋新神戸駅構内にオープンした
「竹中大工道具館」

